



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彙報. 東南アジア研究 1965, 3(1): 164-175

ISSUE DATE:

1965-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/55035>

RIGHT:



## 目 次

- 1 京都大学東南アジア研究センター部門設置
- 2 東南アジア研究センター関係規定
- 3 東南アジア研究センター管理委員会名簿
- 4 東南アジア研究センター管理委員会  
開催日および議題
- 5 東南アジア研究センター運営委員会名簿
- 6 東南アジア研究センター運営準備委員会  
開催日および議題
- 7 東南アジア研究センター運営委員会  
開催日および議題
- 8 東南アジア研究センター後援理事会  
開催日および議題
- 9 東南アジア研究センター昭和40年度  
研究担当教官名簿
- 10 東南アジア研究センター昭和40年度  
現地調査計画
- 11 東南アジア研究センター昭和40年度  
養成計画による海外留学生
- 12 東南アジア研究センター主催国際シンポジウム
- 13 東南アジア研究センター第1回公開講演会
- 14 東南アジア研究センター第1回学内学術講演会
- 15 東南アジア研究センター研究例会
- 16 京都大学附属図書館 HRAF 利用内規
- 17 国外からの訪問者
- 18 関係者往来

### 1 東南アジア研究センター部門設置

昭和38年1月に京都大学の学内組織として発足した東南アジア研究センターは昭和40年4月1日付けをもって正式に官制化され、生物構造研究部門が設置された。所長には京都大学人文科学研究所教授岩村忍が併任され、京都大学農学部助教授本岡武が研究センターの専任教授に任命された。

所 長 併任(人文・教授) 岩 村 忍  
部 門 名 生物構造研究部門  
研究職員 研究センター教授 本 岡 武  
事務職員 事務主任 事務官 藤 山 京 次  
官制化にともない、従来の運営協議会は廃止され、

新らしく運営委員会が設けられた。この委員会は所長、下記の主任および副主任、専任の教授および助教授ならびに研究担当教官のうち所長が委嘱した者によって構成され、業務の企画および運営にかんする重要事項を審議する。

研究センターの業務は3部に分かれ、総務部は研究交流計画、研究者養成計画の立案、実施および連絡調整ならびに研究資料の収集、整理および保管を分担し、人文・社会科学部ならびに自然科学部はそれぞれの領域における調査研究の立案、実施および連絡調整を分担する。各部の主任、副主任は運営委員会が専任教官および研究担当教官のうちから選び、所長が委嘱する。

なお研究センターの管理にかんして、新しい規程のもとに京都大学に管理委員会が設けられた。その構成は学部長、教養部長、関係研究所長ならびに研究センター所長である。

### 2 東南アジア研究センター関係規定

#### 国立学校設置法施行規則(抄)

(昭和40年4月1日改正)

(東南アジア研究センター及びその所長)

第二十条の二 京都大学に、東南アジア地域に関する総合研究を推進するための組織として、東南アジア研究センターを置く。

2 東南アジア研究センターに所長を置き、教授をもって充てる。

#### 京都大学東南アジア研究センター管理委員会規程

(昭和40年4月27日達示第8号制定)

第一条 京都大学に東南アジア研究センター管理委員会(以下「管理委員会」という。)を置く。

第二条 管理委員会は、東南アジア研究センター(以下「研究センター」という。)に関する次の各号にかかげる事項を審議する。

- 一 所長の選考および任期に関すること。
- 二 教官の人事に関すること。
- 三 規程、内規等の制定および改廃に関すること。

四 年次研究計画および予算に関すること。

五 その他研究センターの管理運営に関する重要事項

2 管理委員会は、研究センターの毎年度の研究報告および決算報告書を提出させるものとする。

第三条 管理委員会は、次の各号にかかげる委員で組織する。

一 学 部 長

二 教 養 部 長

三 関係研究所長

四 研究センター所長

2 前項第3号の委員は、総長が委嘱する。

第四条 管理委員会に委員長および副委員長を置く。

2 委員長および副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長および副委員長の任期は、2年とする。

第五条 管理委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 前項の招集は、年1回以上行なわなければならない。

3 2名以上の委員から審議事項を示して管理委員会の開催を求められたときは、委員長は、すみやかに管理委員会を招集しなければならない。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

第六条 議案は、前条第3項に定める場合を除き、委員長が管理委員会に付議する。

第七条 管理委員会は、委員の4分の3以上が出席しなければ開会することができない。

第八条 管理委員会の議事は、出席者の3分の2以上の多数で決する。

第九条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聞くことができる。

第十条 管理委員会の事務を処理するため幹事若干名を置き、総長が委嘱する。

第十一条 前各条に定めるもののほか、議事の運営その他の必要事項は、管理委員会が定める。

#### 附 則

1 この規程は、昭和40年4月27日から施行し、昭和40年4月1日から適用する。

2 京都大学東南アジア研究センター規程（昭和38年達示第1号）および京都大学東南アジア研究センタ

ー管理委員会規程（昭和38年達示第2号）は、廃止する。

#### 東南アジア研究センター組織内規

（昭和40年5月15日）

第一条 この内規は、東南アジア研究センター（以下「研究センター」という。）の内部組織について必要な事項を定める。

第二条 研究センターに運営委員会を置く。

2 運営委員会は、研究センターの業務の企画および運営に関する重要事項を審議する。

3 運営委員会は、所長、第4条の主任および副主任、専任の教授および助教授ならびに研究担当教官のうちから所長が委嘱した者をもって組織する。

4 運営委員会は、所長が招集し、その議長となる。ただし、所長に事故があるときは、総務部の主任が議長となる。

第三条 研究センターに総務部、人文・社会科学部および自然科学部を置く。

2 部の業務は、次の各号に定めるとおりとする。

一 総務部 研究交流計画、研究者養成計画の立案、実施および連絡調整ならびに研究資料の収集、整理および保管等に関すること。

二 人文・社会科学部 人文・社会科学的調査研究の立案、実施および連絡調整に関すること。

三 自然科学部 自然科学的調査研究の立案、実施および連絡調整に関すること。

第四条 部に主任および副主任を置く。

2 主任および副主任は、運営委員会の議を経て、専任教官および研究担当教官のうちから所長が委嘱する。

3 主任は、部の業務を総括する。

4 副主任は、主任を補佐し、主任に事故があるときは、その職務を代行する。

第五条 人文・社会科学部および自然科学部にそれぞれの調査研究計画の遂行上必要な場合には、班を置く。

2 班は、それぞれの調査研究計画を立案し、実施する。

3 班の組織については、運営委員会の議を経て所長が定める。

第六条 調査研究計画の効率的な実施をはかるため、

必要に応じて所長は、専任教官および研究担当教官による合同会議を開くものとする。

第七条 研究担当教官は、関係部局長の推薦のあったものにつき運営委員会において選考する。

第八条 所長は、運営委員会の議を経て他大学の教官等に研究協力を依頼することができる。

第九条 所長は、運営委員会の議を経て大学院学生等に調査研究の機会を与えることができる。

第十条 この内規の運用に関する細目については、運営委員会の議を経て所長が定める。

#### 附 則

- この内規は、昭和40年5月11日から施行し、昭和40年4月1日から適用する。
- 東南アジア研究センター組織運営内規（昭和38年6月4日制定）および東南アジア研究センター運営協議会内規（昭和38年6月4日制定）は、廃止する。

### 3 東南アジア研究センター管理委員会名簿

（昭和40年6月16日現在）

委員長	農学部長	小林 章
副委員長	人文科学研究所所長	森 鹿 三
委員	文学部長	井上 智 勇
〃	教育学部長	重松 俊 明
〃	法学部長	田 畑 茂二郎
〃	経済学部長	岸 本 英太郎
〃	理学部長	後 藤 良 造
〃	医学部長	山 田 肇
〃	薬学部長	上 尾 庄一郎
〃	工学部長	桜 田 一 郎
〃	教養部長	山 下 孝 介
〃	東南アジア研究センター所長	岩 村 忍
幹 事	庶務部長	内 藤 和 美
〃	経 理 部 長	西間木 久 郎

### 4 東南アジア研究センター管理委員会

#### 開催日および議題

昭和40年4月21日

- 管理委員会の規程案について
- 昭和39年度決算報告について

昭和40年4月27日

- 管理委員長および副委員長の互選について
- 所長候補者選考について

3. 専任教官候補者選考方法について

4. フォード財団に対する昭和40年度の予算要求について

昭和40年5月11日

- 東南アジア研究センター組織内規について
- 専任教官候補者の選考方法について

昭和40年5月18日

- 専任教官の選考について

### 5 東南アジア研究センター運営委員会名簿

（昭和40年6月10日現在）

所長	人文科学研究所教授	岩 村 忍
委員	文学部教授	泉 井 久之助
〃	文学部教授	織 田 武 雄（人文・社会科学部主任）
〃	教育学部教授	相 良 惟一（総務部副主任）
〃	法学部教授	猪 木 正道（人文・社会科学部副主任）
〃	経済学部教授	堀 江 保 蔵（総務部主任）
〃	理学部教授	芦 田 譲 治（自然科学部主任）
〃	医学部教授	西 尾 雅 七
〃	医学部教授	西 占 貢
〃	工学部教授	瀧 本 清
〃	農学部教授	四手井 綱 英（自然科学部副主任）
〃	農学部教授	川 口 桂三郎
〃	教養部教授	柴 田 実
〃	教養部教授	吉 井 良 三
〃	東南アジア研究センター教授	本 岡 武

### 6 東南アジア研究センター運営準備委員会

#### 開催日および議題

昭和40年4月20日

- 管理委員会規程について
- 研究センター組織内規について
- フォード財団にたいする昭和40年度の予算要求について
- 昭和39年度決算報告について

昭和40年4月27日

- 研究センター留学生の件について

昭和40年5月4日

1. 自然科学部調査研究計画について
2. アジア財団からの寄付受入れについて
3. 国際シンポジウムならびに講演会について
4. 東南アジア研究センター設置披露について
5. 棚瀬襄爾博士遺児育英資金と遺稿出版について

昭和40年5月11日

1. インディアナ大学との研究者交流計画について
2. 研究センター助手候補者選考について

昭和40年5月14日

1. 専任教官候補者について

昭和40年5月18日

1. 自然科学部調査研究計画について
2. インディアナ大学との研究者交流計画について

昭和40年5月25日

1. 募金の本年度予算について

## 7 東南アジア研究センター運営委員会 開催日および議題

昭和40年6月8日

1. 研究センター研究担当教官選考について
2. 研究センター運営委員会委員の移嘱について

昭和40年6月22日

1. 昭和40年度予算について
2. 東南アジア研究センター所長事務代理について
3. 助手の任用について
4. 研修員の受け入れについて

## 8 東南アジア研究センター後援理事会 開催日および議題

昭和40年4月8日

1. 後援会募金活動の今後の計画について

## 9 東南アジア研究センター昭和40年度研究担当教官名簿

(昭和40年6月22日現在)

部 局 名	職 名	氏 名	研 究 題 目
文 学 部	教 授	泉 井 久之助	マラヤ及びインドネシアの諸方言の直接的採録研究を中心とするマラヤ・ポリネシア諸語の比較言語学的研究
	〃	織 田 武 雄	東南アジアにおける村落の研究
	〃	池 田 義 祐	東南アジアにおける家族及び村落の研究
	助教授	西 田 龍 雄	東南アジア言語の研究
教 育 学 部	教 授	相 良 惟 一	東南アジア地域における教育制度の比較研究ならびに東南アジアの近代化と教育の役割についての研究
	〃	池 田 進	同 上
	〃	佐 藤 幸 治	東南アジア地域における仏教（禅）の比較研究
	助教授	小 田 武	東南アジア地域における教育内容についての研究
	〃	森 口 兼 二	日本人の東南アジア観と東南アジア諸国における日本観
	〃	小 倉 親 雄	東南アジアにおける読書の資源と機会の研究
	助 手	栗 本 一 男	東南アジア地域における教育制度の比較研究ならびに東南アジアの近代化と教育の役割についての研究
	教 授	猪 木 正 道	東南アジア諸国家における政治組織と政治過程の比較研究
法 学 部	〃	福 島 徳寿郎	同 上
	〃	勝 田 吉太郎	東南アジア諸国の政治思想の研究
	〃	田 畑 茂二郎	東南アジアにおける国際関係
	〃	平 場 安 治	東南アジア諸国の比較法的研究
	〃	中 田 淳 一	同 上
	〃	溜 池 良 夫	同 上
	〃	磯 村 哲	同 上
	〃	道 田 信一郎	同 上
	助教授	清 永 敬 治	東南アジア諸国家における政治組織と政治過程の比較研究
	〃	園 部 逸 夫	同 上

部 局 名	職 名	氏 名	研 究 題 目
経 済 学 部	助教授	香 西 茂	東南アジア諸国家における政治組織と政治過程の比較研究
	〃	高 坂 正 堯	東南アジアにおける国際関係
	〃	上 山 安 敏	東南アジア諸国の比較法的研究
	〃	龍 田 節	同 上
	〃	村 松 岐 夫	同 上
	教 授	堀 江 保 蔵	東南アジアの経済的近代化要因の研究
理 学 部	助教授	鎌 倉 昇	東南アジアの経済近代化を阻害している事情の研究
	教 授	芦 田 譲 治	東南アジアの植物の研究
	〃	波多野 博 行	東南アジアにおける <sup>18</sup> O 炭酸カルシウム源の分布調査
医 学 部	〃	小 沢 泉 夫	地球物理学の研究
	助教授	田 川 基 二	東南アジアの植物相の調査および研究
	助 手	岩 槻 邦 男	東南アジアのシダ植物の調査および研究
	教 授	西 尾 雅 七	東南アジア諸地域における公衆衛生学的研究
	〃	浅 山 亮 二	東南アジア地区における失明の原因調査とその対策
	〃	村 上 仁	東南アジアにおける民族精神医学的研究
	〃	美濃口 玄	東南アジア地区における飲料水中弗素量と斑状歯発症との関係
	〃	西 占 貢	東南アジアにおける癩の研究
	助教授	岡 田 誠太郎	同 上
	〃	小 野 尊 睦	東南アジアにおける口腔疾患調査
薬 学 部	助 手	佐 藤 匠	同 上
	教 授	井 上 博 之	東南アジア各地の植物を医薬資源として検討し薬理学的に興味あるものについて化学的に研究を行なう
	〃	木 島 正 夫	東南アジアにおける薬用植物、生薬調査研究
工 学 部	講 師	秦 清 之	同 上
	教 授	松 尾 新一郎	タイ国における土質・地下水に関する研究
	〃	瀧 本 清	東南アジアにおける酸性火成岩にともなう鉱床の研究
	〃	吉 住 永三郎	東南アジアにおける地下資源の探査
	〃	向 井 滋	東南アジアにおける鉱産資源の選鉱に関する研究
	〃	森 山 徐一郎	東南アジアにおける錫石・イルメナイト鉱の冶金学的研究
	〃	岩 井 重 久	東南アジアの上下水道、衛生設備とその将来開発に関する研究
	助教授	鈴 鹿 恒 茂	東南アジアにおける酸性火成岩にともなう鉱床の研究
	〃	谷 口 敬一郎	東南アジアにおける地下資源の探査
	〃	若 松 貴 英	東南アジアにおける鉱産資源の選鉱に関する研究
農 学 部	講 師	西 田 一 彦	タイ国における土質・地下水に関する研究
	〃	港 種 雄	東南アジアにおける酸性火成岩にともなう鉱床の研究
	〃	入 江 恒 爾	東南アジアにおける地下資源の探査
	教 授	四手井 綱 英	東南アジアの自然環境の研究
	〃	川 口 桂三郎	東南アジアの水田土壌
	〃	富士岡 義 一	東南アジアにおける土地水資源ならびに農業開発の調査研究
	〃	沢 田 敏 男	東南アジアにおける農業水利の総合的研究
	〃	三 井 哲 夫	魚毒性成分含有植物の探索
	〃	西 川 義 正	東南アジア地域における家畜の生産性に関する調査——とくに受胎性の向上に関する技術的研究
	〃	桑 原 正 信	タイ国における農業簿記の普及状況および同国に適用せる簿記様式の研究

部 局 名	職 名	氏 名	研 究 題 目
教 養 部	授 教	赤 井 重 恭	東南アジアにおける作物の病害の研究
	〃	長谷川 浩	東南アジアにおける稲作に関する研究
	助教授	堤 利 夫	東南アジアの自然環境の研究
	〃	南 勲	東南アジアにおける広域水利計画に関する研究
	〃	喜 田 大 三	東南アジアの水田土壌
	〃	高 橋 英 一	窒素固定微生物ならびに水稻の栄養生理
	〃	菊 地 泰 次	タイ国における農業簿記の普及状況および同国に適應せる簿記様式の研究
	〃	阿 部 亮 耳	簿記調査に基づくタイ国農業経営の研究
	助 手	飯 島 茂	東南アジアの山地民社会の研究
	教 授	柴 田 実	東南アジアの稲米儀礼（稲作農耕民族の民俗調査）
	〃	西 村 睦 男	東南アジアの経済地理学的研究
	〃	藤 岡 謙二郎	東南アジアの都市地理学的研究
	〃	大 浦 幸 男	東南アジア諸国における外国語教育
	〃	山 下 孝 介	南方栽培植物の特性の調査並にそれらの導入に関する研究
	〃	久 米 直 之	南方植物の発生生理に関する研究
	〃	吉 井 良 三	東南アジアにおける森林土壌内の生物相の研究
	〃	東 中 秀 雄	アジアの重力にかんする研究ならびに物理探鉱法によるアジア各地の局地的地下構造の研究と地下資源の開発
	〃	太 田 枉次郎	磁気赤道帯における地磁気異常変化の研究及び磁気測量
	助教授	安 藤 昭 一	東南アジア諸国における外国語教育
化学研究所	〃	大 橋 保 夫	東南アジア諸国の言語政策
	〃	平 野 実	陸水産藻類の植物地理学的研究
	〃	尾 崎 雄二郎	東南アジアにおける中国語方言の調査研究
	助 手	横 田 澄 司	自己評価と行動型式との関係——社会的相互作用を中心として
人文科学研究所	〃	足 利 健 亮	東南アジアの歴史地理学的研究
	教 授	水 渡 英 二	東南アジアにおけるゴム加工の調査研究
	〃	岩 村 忍	東南アジアの調査一般
	〃	平 岡 武 夫	東南アジアの仏教の研究
結核研究所	助教授	日比野 丈 夫	マラヤの華僑調査
	〃	吉 田 光 邦	マラヤの村落調査
	教 授	長 石 忠 三	東南アジアにおける結核の現状調査および結核外科の指導
	〃	内 藤 益 一	東南アジアにおける結核の疫学並びに化学療法に関する研究
木材研究所	助教授	寺 松 孝	東南アジアにおける結核の現状調査および結核外科の指導
	〃	前 川 暢 夫	東南アジアにおける結核の疫学並びに化学療法に関する研究
	教 授	貴 島 恒 夫	南方材の調査および研究
	〃	北 尾 弘一郎	同 上
防災研究所	助教授	西 本 孝 一	同 上
	教 授	矢 野 勝 正	東南アジアにおける水災害に関する調査研究
	〃	石 原 安 雄	同 上
	〃	角 屋 睦	同 上
	〃	芦 田 和 男	同 上
	〃	山 口 真 一	東南アジアにおける地盤地質及びすべり地の分布型の研究
	〃	石 崎 澄 雄	東南アジアにおける構造物の暴風災害に関する研究
	〃	小 堀 鐸 二	東南アジアにおける構造物と地盤の震害調査ならびに震害防御の研究

部 局 名	職 名	氏 名	研 究 題 目
ウイルス研究所	教 授	若 林 実	東南アジアにおける構造物の風害ならびに震害に関する研究
	助教授	樋 口 明 生	東南アジアにおける水災害に関する調査研究
	〃	中 川 博 次	同 上
	〃	長 尾 正 志	同 上
	助教授	高 田 雄 次	東南アジアにおける地盤地質及び地すべり地の分布型の研究
	〃	光 田 寧	東南アジアにおける構造物の暴風災害に関する研究
	〃	南 井 良一郎	東南アジアにおける構造物と地盤の震害調査ならびに震害防御の研究
	〃	野 中 泰二郎	東南アジアにおける構造物の風害ならびに震害に関する研究
	助 手	桂 順 治	東南アジアにおける構造物の暴風災害に関する研究
	〃	井 上 豊	東南アジアにおける構造物と地盤の震害調査ならびに震害防御の研究
	〃	鈴 木 有	同 上
	〃	松 井 千 秋	東南アジアにおける構造物の風害ならびに震害に関する研究
	教 授	東 昇	東南アジアにおける熱帯病の病原学的研究
	〃	松 本 清 一	狂犬病街上毒ウイルスの蒐集
	助教授	市 田 文 弘	東南アジアにおける流行性肝炎の現地調査

(以 上 122名)

## 10 東南アジア研究センター昭和40年度現地調査計画

参 加 者	所 属	題 目	日 程	地 区
社会科学部				
本 岡 武	京大・東南ア研・教授	タイにおける農業開発に関する研究	1965年10月1日～ 1966年3月31日	タイ中部平原の農村
飯 島 茂	京大・東南ア研・助手	タイ国における山地民社会	1965年10月25日～ 1966年6月24日	タイ北部メホンソン
水 野 浩 一	京大・東南ア研・研修員	タイ国東北部の村落社会の変動	1965年11月1日～ 1966年6月30日	タイ東北部
矢 野 暢	京大・東南ア研・研修員	南部タイのマライ系タイ人村落の変化過程	1965年12月1日～ 1966年3月31日	タイ南部
口 羽 益 生	竜大・文・助教授	マラヤにおけるマレー人社会の総合研究	1965年7月1日～ 同 年9月5日	マレーシア：アロールジャングス
前 田 清 茂	天理大・講師	同 上	1965年7月15日～ 同 年9月15日	同 上
坪 内 良 博	京大・東南ア研・研修員	同 上	1965年6月15日～ 1965年9月5日	同 上
前 田 成 文	京大・文・大学院	同 上	1965年6月20日～ 1966年3月31日	マレーシア：パハン
梅 田 輝 世	関西学院・文・大学院	同 上	1965年7月5日～ 同 年8月31日	マレーシア：アロールジャングス
神 谷 不 二	大市大・法・教授	東南アジアにおける政軍関係	1965年11月1日～ 同 年12月18日	台北, 香港, バンコック, サイゴン, シンガポール,
鎌 倉 昇	京大・経・助教授	東南アジア諸国において経済近代化を阻止する諸要因	1965年7月19日～ 同 年8月18日	ジャカルタ, クアラルンプール
森 口 兼 二	京大・教・助教授	タイ国における教育の現状と問題点——近代化に果たす役割について	1965年10月下旬～ 1966年1月下旬	バンコック, アユティヤ, チェンマイ, ジャカルタ



参 加 者	所 属	題 目	日 程	地 区
泉 井 久 之 助	京大・文・教授	マラヤ・ポリネシア諸語の比較言語学的研究	1965年度末から約100日間	フィリピン, マレーシア, インドネシア
藤 吉 慈 海	京大・人文・助手	東南アジアの仏教の研究	1965年12月中旬から50日余り	タイ, ラオス, マレーシア, 台湾
藤 本 勝 次	関西大・文・教授	マラヤにおけるイスラムの調査	1965年7月5日～同年9月15日	マラヤ
自然科学部				
谷 口 敬一郎	京大・工・助教授	マレーシアの地下資源調査(物理探鉱学的研究)	1965年8月19日～同年9月9日	ジョホール, クアラルンプール
入 江 恒 爾	京大・工・講師	同 上	同 上	同 上
鈴 鹿 恒 茂	京大・工・助教授	マレーシアの地下資源調査(地質鉱物学的研究)	1965年8月19日～同年9月9日	ジョホール, クアラルンプール
港 種 雄	京大・工・講師	同 上	同 上	同 上
西 占 貢	京大・皮膚特研・教授	東南アジアに於ける小児のライに関する研究	1965年11月1日～同年12月31日	バンコック, チェンマイ, コーンケー, チャイナート
岡 田 誠 三	京大・皮膚特研・助教授	同 上	同 上	同 上
東 昇	京大・ウィルス研・教授	デング熱ウィルスに関する研究	1965年8月2日～同年8月18日	バンコック
美 濃 口 玄	京大・医・教授	東南アジア地区に於けるウ蝕予防のための上水道弗素化実施の可能性の検討ならびに弗素化量の決定基準の確立	1966年1月6日～同年2月10日	バンコック, チェンマイ
寺 松 孝	京大・結研・助教授	タイ国に於ける肺結核外科の現状調査	1965年7月2日～同年8月30日	バンコック
赤 井 重 恭	京大・農・教授	東南アジアにおけるイネおよび禾本科植物の疾病調査	1965年10月1日～同年11月4日	タイ, マレーシア, カンボジア, 台湾
南 勲	京大・農・助教授	東南アジアにおける広域水利計画に関する調査	1965年7月25日～同年9月3日	タイ
渡 部 忠 世	京府大・農・助教授	タイ国ならびにラオス国における稲作改良に関する研究	1965年7月4日～同年12月18日	タイ北部, 東北部ラオス
福 井 捷 明	京大・農・大学院	同 上	1965年7月1日～1966年1月26日	タイ中央部, 東北部
小 林 達 治	京大・農・助手	水田土壌中の窒素固定性微生物の研究	1965年8月4日～同年9月2日	タイ, マレーシア, フィリピン
川 口 桂 三 郎	京大・農・教授	東西パキスタン, カンボジアおよびフィリピンにおける水田土壌調査	1965年11月22日～1966年2月14日	パキスタン, カンボジア, フィリピン
久 馬 一 剛	京大・農・助手	同 上	同 上	同 上
河 津 一 儀	京大・農・助手	魚毒成分の含有植物の探索	1965年8月2日～同年8月31日	シンガポール, クアラルンプール, パハン, マラッカ, バンコック
吉 井 良 三	京大・教養・教授	地域調査の予備調査	1965年7月15日～同年9月15日	ジャバ島と外領
今 立 源太郎	東医歯大・助手	同 上	同 上	同 上
酒 井 敏 明	京大・文・大学院	同 上	同 上	同 上
田 川 基 二	京大・理・助教授	タイ国の植物相調査	1965年10月20日から約3カ月	タ イ

参 加 者	所 属	題 目	日 程	地 区
岩 槻 邦 男	京大・理・助手	タイ国の植物相調査	1965年10月20日から約3カ月	タ イ
北 川 尚 史	奈学芸・講師	同 上	同 上	同 上
福 岡 誠 行	京大・理・大学院	同 上	同 上	同 上

# 11 東南アジア研究センター昭和40年度 養成計画による海外留学生

石毛 直道：京都大学大学院文学研究科修士課程（考古学専攻）；留学機関 米国・シラキューズ大学  
桂満 希郎：京都大学大学院文学研究科博士課程（言語学専攻）；留学機関 タイ国・チュラーロンコーン大学

# 12 東南アジア研究センター主催国際 シンポジウム

**The Symposium on Japan's Future in Southeast Asia.** May 31-June 2, 1965, at Mt. Hiei Hotel, Kyoto, under the sponsorship of the Center for Southeast Asian Studies of Kyoto University.

## Organizing Committee:

Chairman: Masamichi Inoki (Faculty of Law)  
Secretary: John H. Badgley (Faculty of Law)  
Takeshi Motooka (Center for SEA)  
Shigeru Kozai (Faculty of Law)

## Sessions:

1. "Indonesia's Political Future." *Chairman*: Prof. S. Iwamura (Director of the Center). *Contributors*: Dr. G. J. Pauker (Division of Social Sciences, the RAND Corporation, U. S. A.), Prof. H. J. Benda (Southeast Asia Studies, Yale University, U. S. A.), Prof. H. Feith (Faculty of Economics and Politics, Australia). *Discussants*: Prof. T. Fukuchi (International Christian University). Prop. D. Wurfel (Department of Political Science, University of Singapore Malaysia), Prof. J. H. Badgley (Faculty of Law).

2. "Comparative Development Problems in

Southeast Asia." *Chairman*: Prof. Hla Myint (Institute of Commonwealth Studies, Oxford University, U. K.). *Contributors*: Prof. T. Fukushima (Faculty of Law), Prof. J. H. Badgley (Faculty of Law), Prof. T. Motooka (Center for SEA). *Discussants*: Prof. N. Kamakura (Faculty of Economics), Prof. V. T. Dutt (Indian School of International Studies, India).

3. "Economic Growth in Southeast Asia." *Chairman*: Prof. S. Eto (Faculty of Liberal Arts, Tokyo University). *Contributors*: Prof. N. Kamakura (Faculty of Economics), Prof. T. Fukuchi (International Christian University). *Discussants*: Prof. Hla Myint (Institute of Commonwealth Studies, U. K.), Prof. S. Ishikawa (Faculty of Economics, Hitotsubashi University).

4. "Major Outside Powers in Southeast Asia." *Chairman*: Prof. H. Feith (Faculty of Economics and Politics, Monash University, Australia). *Contributors*: Prof. M. Kosaka (Faculty of Law), Prof. V. T. Dutt (Indian School of International Studies, India), Prof. S. Ishikawa (Faculty of Economics, Hitotsubashi University). *Discussants*: Prof. J. M. Saniel (Institute of Asian Studies, University of the Philippines, Philippines), Prof. P. Choomchai (Faculty of Political Science, Chulalongkorn University, Thailand), Prof. S. Kozai (Faculty of Law), Prof. F. Kamiya (Faculty of Law, Osaka Municipal University).

5. "Japan's Policy towards the Region." *Chairman*: Dr. G. J. Pauker (Division of Social Sciences, the RAND Corporation, U. S. A.).

*Contributors*: Prof. M. Inoki (Faculty of Law), Prof. J. H. Badgley (Faculty of Law), Prof. J. M. Saniel (Institute of Asian Studies, University of the Philippines, Philippines), Prof. Hla Myint (Institute of Commonwealth Studies, Oxford University, U. K.). *Discussants*: Prof. H. J. Benda (Southeast Asia Studies, Yale University, U. S. A.), Prof. H. Feith (Faculty of Economics and Politics, Australia), Prof. M. Kosaka (Faculty of Law), Prof. P. Langer (Division of Social Sciences, the RAND Corporation, U. S. A.).

6. "Concluding Session." *Chairman*: Prof. M. Inoki (Faculty of Law). *Rapporteur*: Prof. J. H. Badgley (Faculty of Law).

#### Discussion :

The purpose of the meeting was to provide Japanese social scientists recently engaged in research in Southeast Asian countries with an international forum for the following discussions: analysis of modernization process in Southeast Asia and the possible roles which the Japanese will play for assisting modernization. Several foreign scholars, specialists on Southeast Asia of international fame as well as scholars from Southeast Asian Countries were invited to participate in the symposium. The papers submitted to the conference will be issued before long.

### 13 東南アジア研究センター 第1回公開講演会

昭和40年6月3日、大阪・関電ホールにおいて、センター主催の公開講演会が催された。奥田東総長の開会の辞につづき、東南アジアの諸問題についての講演が行われたが、その内容と講演者はつぎのとおりである。すなわち高坂正堯（法・助教授）：「ベトナム問題をめぐって」；H・フィース（オーストラリア・モナシユ大学・教授）：「インドネシアはどこへゆく」；西占貢（医・教授）：「東南アジアのライ病」；川口桂三郎（農・教授）：「東南アジアの稲作」；本島武（東南ア研・教授）：「東南アジアの経済開発と農業」である。閉会の辞はセンター所長岩村忍教授がこれを務められ、最後にNHK撮影・センター協力による映画「タイの山地民」が上映された。

### 14 東南アジア研究センター 第1回学内学術講演会

昭和40年5月29日、京大・法経第4教室において学内学術講演会が開かれた。センター所長岩村忍教授の「あいさつ」につづき、東南アジアの自然と生活にかんする講演報告があった。その内容と講演者はつぎのとおりである。すなわち戸田円二郎（医学部副手、アジア救済協会医務部長）：「東南アジアにおけるハンセン氏病」；荻野和彦（農・研修員）：「タイの森林」；飯島茂（農・助手）：「タイ国北部の山地民」；水野浩一（センター研究員）：「タイ国東北部の農民」；口羽益生（竜大・助教授）：「マラヤの農村」である。最後に、NHK撮影・センター協力による映画「水と戦う農民」と「タイの山地民」が上映された。

### 15 東南アジア研究センター研究例会記事

（昭和40年2月1日より昭和40年6月24日まで）

年 月 日	講 演 者	題 名
昭和40年2月24日	足 利 惇 氏（京大・文・教授）	「東南アジア研究感想」
	泉 井 久 之 助（京大・文・教授）	「ロンドン大学におけるインド洋・太平洋地域言語学的諸問題にかんする専門家会議に出席して」
	猪 木 正 道（京大・法・教授）	「タイの政治的近代化について」
昭和40年3月11日	前 川 暢 夫（京大・結研・助教授）	「タイ国における結核の現状と展望 —内科的方面—」
	寺 松 孝（京大・結研・助教授）	「タイ国における結核の現状と展望外科的方面」
	西 占 貢（京大・皮膚特研・教授）	「タイ国・マレーシア・インドにおける癩について」

年 月 日	講 演 者	題 名
昭和40年 3 月25日	東 昇 (京大・ウィ研・教授)	「カルカッタよりバンコックへ」
	平 沢 興 (京大名誉教授)	「感 想」
	香 西 茂 (京大・法・助教授)	「東南アジアの国際状況」
	高 坂 正 堯 (京大・法・助教授)	「東南アジアの国際状況」
昭和40年 4 月25日	John H. Badgley (Visiting Professor)	「Thailand and Burma: Two Views of Progress and Corruption」
昭和40年 3 月26日	吉 井 良 三 (京大・教養・教授)	「東南アジアの生物調査について——予備調査報告」
	岩 村 忍 (京大・人文・教授)	「アメリカ出張報告」
	吉 良 竜 夫 (大阪市大・教授)	「カンボジアの自然」
	南 勲 (京大・農・助教授)	「チャオピア(メナム)デルタの広水域水利計画と塩害問題」
昭和40年 4 月27日	富 士 岡 義 一 (京大・農・教授)	「タイおよびマレーシアにおける灌漑排水予備調査報告」
	松 尾 新 一 郎 (京大・工・教授)	「タイ国における土質事情、特に地下水について」
	喜 多 村 浩 (E C A F E 経済計画部長代理)	「アジア経済開発の見通し」
	口 羽 益 生 (竜大・文・助教授)	「マラヤ北西部における稲作農村調査——中間報告」
昭和40年 5 月13日	坪 内 良 博 (センター研究員)	同 上
	前 田 成 文 (京大・文・大学院)	「マラヤ大学留学報告」
昭和40年 6 月10日	藤 本 勝 次 (関大・文・教授)	「マラヤにおけるイスラム調査経過報告」
	福 井 捷 朗 (京大・農・大学院)	「タイ国留学から帰って」
	藤 吉 慈 海 (京大・人文・助手)	「タイの仏教について」
	本 岡 武 (京大・東南ア研・教授)	「フィリピン国立大学政治学部開学50周年記念式典に出席して」

## 16 京都大学附属図書館 HRAF 利用内規

第一条 H R A F (Human Relations Asea Files) の利用に関しては、この内規の定めるところによる。

第二条 この内規において、「利用」とは、学術研究を目的とするスリップの閲覧および複写をいう。

第三条 H R A F のスリップの貸出しは、いっさい行なわない。

第四条 H R A F を利用できる者は、次に掲げる者とする。

- 一 京都大学の教官および大学院学生
- 二 国立大学の教官または公・私立大学の教員
- 三 国公立の研究機関または、これに準ずる機関の研究者
- 四 京都大学附属図書館長が特に認めた者

第五条 H R A F の利用は、当分の間、附属図書館の開館時間中の午前9時から午後4時までとする。

第六条 スリップのファイルへの返納は、係員がこれを行なう。

第七条 スリップの複写に関しては、京都大学附属図書館文献複写規程の定めるところによる。

第八条 H R A F を研究に利用して発表したときは、その旨を明記するとともに、刊行物を二部納入しなければならない。

### 附 則

この内規は昭和40年6月23日から施行する。

## 17 国外からの訪問者

昭和40年2月16日 Dr. James Steward, Representative, Tokyo Office of the Asia Foundation.

昭和40年3月9日 Dr. Ramon J. Oben, St. Thomas University.

昭和40年4月10日 Prof. Nicolls DeWitt, Indiana University.

昭和40年4月19日 Prof. Robert Ho Peng-Yoke,  
University of Malaya.

昭和40年5月1日 Dr. Uddhis Nakasawad, Depnty  
Secretary-General for Social  
Science, National Research  
Council of Thailand.

昭和40年5月7日 Mr. R. G. Green, United Na-  
tions Special Fund Project  
Manager, on Paper & Pulp  
Material Survey in Thailand.

昭和40年6月1日 Prof. Herbert Passin, Colum-  
bia University.  
Dr. Robert E. Ward, Deputy  
Vice President, the Ford Ford  
Foundation.

国際シンポジウム関係者  
Prof. Prachoom Chomchai, Faculty of Politi-

cal Science, Chulalongkorn University.

Prof. Josefa M. Saniel, Institute of Asian  
Studies, University of the Philippines.

Prof. David Wurfel, Department of Political  
Science, University of Singapore.

Prof. Harry J. Benda, Southeast Asia Studies,  
Yale University.

Prof. Herbert Feith, Faculty of Economics  
and Politics, Monash University.

Prof. V. T. Dutt, Indian School of Internation-  
al Studies.

Prof. Hla Mint, Institut of Commonwealth,  
Oxford University.

Prof. Paul Langer, Division of Social Science,  
The RAND Corporation.

Prof. Guy Jean Pauker, Division of Social  
Science, The RAND Corporation.

18 関 係 者 往 来

(昭和40年1月31日から昭和40年6月20日まで)

氏 名	出 発	帰 国	行 先
泉 井 久 之 助 (京大・文・教授)	40. 1. 31	40. 1. 31	欧州, タイ
寺 松 孝 (京大・医・助教授)	40. 2. 5	40. 2. 5	タ イ
高 坂 正 堯 (京大・法・助教授)	40. 2. 8	40. 2. 8	カンボジア・ラオス・ベトナム・ビルマ
富 士 岡 義 一 (京大・農・教授)	40. 2. 12	40. 2. 12	タイ・マレーシア・カンボジア
岩 村 忍 (東南ア研究・所長)	40. 3. 1	40. 4. 6	アメリカ
日 比 野 丈 夫 (京大・人文・助教授)	40. 3. 15	40. 3. 15	マカオ・マレーシア・タイ
中 村 孝 志 (天理大・教授)	40. 3. 15	40. 3. 15	台湾・香港・マカオ・ベトナム・カンボ ジア・マレーシア・インドネシア
藤 原 利 一 郎 (京女大・教授)	40. 3. 15	40. 3. 15	マレーシア
船 越 昭 生 (京大・人文・助手)	40. 3. 15	40. 3. 15	マレーシア
川 口 桂 三 郎 (京大・農・教授)	40. 3. 27	40. 3. 27	タイ・マレーシア
久 為 一 剛 (京大・農・助手)	40. 3. 28	40. 3. 28	タイ・マレーシア
古 川 久 雄 (京大・農・大学院)	40. 3. 29	40. 3. 29	タイ・マレーシア
藤 本 勝 次 (関大・文・教授)	40. 3. 30	40. 3. 30	タイ・マレーシア
田 川 基 二 (京大・理・助教授)	40. 4. 14	40. 4. 14	香 港
吉 井 良 三 (京大・教養・教授)	40. 2. 26	40. 4. 15	インドネシア
水 野 浩 一 (東南ア研・研究員)	40. 5. 10	40. 5. 10	タ イ
酒 井 敏 明 (京大・文・大学院)	40. 6. 13	40. 6. 13	アメリカ
前 田 成 文 (京大・文・大学院)	40. 6. 20	40. 5. 12	マレーシア
福 井 捷 朗 (京大・農・大学院)	40. 6. 15	40. 5. 31	タ イ
坪 内 良 博 (京大・文・研修員)	40. 6. 15	40. 6. 15	マレーシア
本 岡 武 (東南ア研・教授)	40. 6. 12	40. 6. 20	フィリピン